

大麻と朱印と大御璽



新たに誕生した神宮大麻だけでなく、御祓大麻を継承した各種授与大麻にも同様に朱印が捺され、新時代の大麻を印象付けます。

明治の新たな国づくりとともに
新たな神宮の大麻が誕生しました。

内宮側の大麻には八重の雲形

外宮側の大麻には稲穂形をあしらった

朱印が捺されるようになりました。

この朱印が捺された神宮大麻は

「大御璽」とも称されるようになりました。

明治維新により神宮の制度にも大きな
変革がもたらされ、鎌倉時代以来続いた
御師おんしの御祓大麻おはくは、それを奉製し頒布し
ていた御師の廃絶に伴い、新体制を立て
た神宮が参拝者にのみ域内で限定的に授
与する形で継承され、現在の神楽殿で授
与される各種の授与大麻へとその性格は
繋がりましたが、その体裁は旧時代の大
麻とは明確に異なるものとなりました。

明治五年四月に皇大神宮の御垣みかき内で神
宮御璽奉行式が行われ、全国へ頒布する
新たな神宮大麻Ⅱ頒布大麻に「皇大神宮
御璽」を印文とする朱印が捺おされること
となりましたが、授与大麻にも各宮号を
印文とする朱印が捺されることとなりま
した。

皇大神宮はじめ内宮側の大麻は印文の
周囲に八重に重なる雲形、豊受大神宮は
じめ外宮側の大麻には豊かに繁る稲穂形
をあしらい、それぞれの御神徳の神々し
さを表した重厚さのある美しい朱印と
なっています。



大麻曆奉製始祭。大麻銘紙に神璽（御璽）を捺します。年頭に奉仕され、明治五年の御璽奉行式を髣髴させます。



奉製された神宮大麻。「大御璽」とも称され、その語源は大麻の中央に捺される朱印＝「御璽」と考えられます。

御璽と大御璽

御師の御祓大麻にはこのような朱印を捺したものは見られませんでしたが、神宮の大麻として朱印を捺した大麻は明治以降の新たな体裁です。この朱印を神宮では「御璽」と称し、この御璽を捺した神宮大麻を「大御璽」と称することとなりました。この大御璽はオオミシルシと読みますが、御師の御祓大麻をこのように称したことはなく、神宮大麻を大御璽と称することになったのはやはりこの明治の御改正以降の事です。

大御璽＝オオミシルシの意味として、「シルシ」という語が入っていることから、神宮の象徴、というような漠然とした抽象的な意味を与える解釈もありますが、御璽という朱印が大麻の中心に捺される事となつて生まれた大御璽という新語ですから、その朱印に重きを置いた神札の名称と考えるべきでしょう。

麻と大麻

そもそも、御璽から大御璽という語が生まれたのと同じ関係が、麻と大麻に認められます。大麻は正式にはオオヌサと読み、ヌサとは神への供物を意味して通常は「幣」の字を用いるところ、神宮ではヌサとして麻を用いたところから麻をヌサと読むこととなりました。つまり、麻を中心とした神札の名称を大麻としたのです。これと同様に、御璽を中心とし

た神札の名称が大御璽とされたものと考えられます。

大麻とは

ところで、ヌサとは神への供物なのですが、これが神札とされたのはなぜでしょう。この根拠が天照大御神と八咫鏡の關係に求められます。八咫鏡は天照大御神に捧げられたことで、天照大御神の霊代となったのでした。神に捧げられた物には神の御魂が宿るとするのは古来の信仰に広く認められます。現在でも、神様にお供えした神饌をお下げて食することで神様の力を頂けるものとします。

大御神への供物であるヌサに大御神の御魂が宿ることで、供物であったヌサが御魂の宿る神札となります。そして御師は清浄を尊ぶ信仰から、大御神に麻を供えてひたすらに祓い清めを祈りました。するとそこには大御神による祓いの神威が宿されます。これが祓具ともされる御祓大麻の性格です。つまり、供物であるから神威が宿り、そこに祓いの祈禱が伴えば祓いの神威が宿る祓具ともなる。このように神宮で大御神への祈禱をして大御神の神威を宿した物だからこそ、神宮を仰ぐ象徴ともされるのです。神宮大麻には複数の性格・意味合いが認識されますが、それはこのように段階的に形成され、その複数の性格・意味合いは、重層的にそこに宿ることとなります。そしてこの神宮の神札の性格は、その名称が大麻であれ大御璽であれ変わるものではあ

御祓大麻には通常、宮号と大麻を奉製した御師の名が墨書（印刷）され、朱印は捺されませんでした。（八幡大夫）



りません。

なお、御師の御祓大麻は千度祓・万度祓などと称される大麻が多く授与されました。これらは祓いの祈禱を千度分、万度分行った大麻として、その祈禱の供物である麻を大量に束ねて神札としたものです。祈禱を重ねる回数^{ぬき}の多さを麻^{ぬき}Ⅱ大麻の数量の多さとしたのです。この御祓大麻の性格を継承したのが神楽殿の授与大麻ですので、何度も神宮に参拝して祈りを重ね何度も授与大麻を受け、多くの授与大麻を神棚に祭るのも伝統的な大麻の祭り方と言えるでしょう。

大麻の祭り方

大御神の神威の宿る大麻ですので、これを丁重にお祭りせねばなりません。しかし、丁重なお祭りとは、大麻を立派な宮形に納め、南や東に向け、毎日神饌をお供えすることに必ず限定されなければならないのでしょうか。

それは丁重な祭り方の一つとして尊ばれます。しかしかつては神宮の大麻や神社の神札は壁などに貼って拝むことも一般的でした。神宮の一二五社の中には、お宮に納められない石の神座もありますし、西向きや北向きの神座や社殿もあります。そしてそれら一二五社の社殿の前に毎日神饌がお供えされるわけでもありません。

丁重なお祭りとは、心尽くしのお祭りをすることでしょう。豪華な社殿に毎日お供えをするようなお祭りができないか



大麻修祓式。大麻を神饌とともに神前に供え、神威の付与を祈って祓いを修します。



宮形各種。形状は様々ですが、神札を大切にお納めするために設けられます。



神札掛各種。神札を壁面に貼ってお祭りする形式をより丁重にすることができます。

らといって、神社を無くしてしまうようなことを神様は喜ばれるでしょうか。古くから地域に鎮座する小さな神社の多くに目を向ければ、毎日お供えがされなくても神様はそこで静かに、氏子たちの暮らしを見守りくださっています。

年に数度のお祭りを氏子たちと楽しみ、正月には新しい門松や櫛で飾り付けられて氏子たちの祈りを受ける。神と人との素朴な共存。それを家庭で営むのが大麻・神札のお祭りです。立派な神社と同じことができなくても、神様は静かに家庭を見守ってくださいましょう。

神棚の形はさまざまでも、お供えが毎日できなくても、まずは神様を敬う心で大麻・神札をお迎える、そして真心を尽くして持続可能なお祭りをするのが大切なのではないのでしょうか。